

開講学科	基礎教育センター		前橋工科大学 シラバス			
科目名	保健体育	標準対象年次	選択/必修	科目コード		
		1年次	選択	11001901/11001903 18001703		
担当教員	中雄 勇人・霜鳥 駿太	単位数	学期	曜日	時限	
		2単位	通年	火曜日	4、5時限	
授業の教育目的・目標	広汎な知識体系への関心を喚起し、幅広い教養と豊かな人間性の涵養を図るとともに、工学の専門教育に必要な基礎的学力、思考力ならびに表現力などを修得させる。					
学科の学習・教育目標との関係	大学生として必要な教養と倫理観を身に付ける。					
キーワード	健康・スポーツ実践					
授業の概要	<p>1) チーム・スポーツ及び生涯スポーツに直結するデュアルスポーツに計画的に取り組み、現在並びに生涯を通してスポーツに親しむことができる能力を高める。</p> <p>2) スポーツ実践を通して、身体と心の変化を感じとることができる能力を高める。</p> <p>3) 食と健康に関する知識を獲得する。</p>					
授業の計画	<p>第1回： オリエンテーション チーム・スポーツの特性及び楽しみ方と身体と心の変化に関する調査方法について</p> <p>第2回： ネット型スポーツ（バスケットボール）の実施計画立案と運動実践</p> <p>第3回： ネット型スポーツ（バスケットボール）の個人的技能の習熟方法の理解と運動実践</p> <p>第4回： ネット型スポーツ（バスケットボール）の集団的技能の習熟方法の理解と運動実践</p> <p>第5回： ネット型スポーツ（バスケットボール）のボールを持たない動きの理解と運動実践</p> <p>第6回： ネット型スポーツ（バスケットボール）の試合の運営方法の理解と運動実践 1</p> <p>第7回： ネット型スポーツ（バスケットボール）の試合の運営方法の理解と運動実践 2</p> <p>第8回： 食や健康に関する講義</p> <p>第9回： ゴール型スポーツ（フットサル）の実施計画立案と運動実践</p> <p>第10回： ゴール型スポーツ（フットサル）の個人的技能の習熟方法の理解と運動実践</p> <p>第11回： ゴール型スポーツ（フットサル）の集団的技能の習熟方法の理解と運動実践</p> <p>第12回： ゴール型スポーツ（フットサル）のボールを持たない動きの理解と運動実践</p> <p>第13回： ゴール型スポーツ（フットサル）の試合の運営方法の理解と運動実践 1</p> <p>第14回： ゴール型スポーツ（フットサル）の試合の運営方法の理解と運動実践 2</p> <p>第15回： 学習のまとめ 身体と心の変化に関する自己調査の結果からみた自己の課題について</p>					
受講条件・関連科目						
授業方法	実技および講義					
テキスト・参考書	なし。ただし、適宜資料を配布する。					
成績評価	<p>・試験（20%） ・レポート（80%）</p> <p>各種スポーツの運動実践の様子、受講状況、毎授業後提出する身体と心の変化に関する簡単な調査及びそれに関するレポートから評価する。</p>					
履修上の注意	実技の際には、必ず体育に適した服装（ジャージ）に着替えること。					

開講学科		前橋工科大学 シラバス			
科目名	保健体育(後期)	標準対象年次	選択/必修	科目コード	
		1年次	選択	11001902 11001901/11001903	
担当教員	中雄 勇人・霜鳥 駿太	単位数	学期	曜日	時限
		2単位	通年	火曜日	4、5時限
授業の教育目的・目標	広汎な知識体系への関心を喚起し、幅広い教養と豊かな人間性の涵養を図るとともに、工学の専門教育に必要な基礎的学力、思考力ならびに表現力などを修得させる。				
学科の学習・教育目標との関係	大学生として必要な教養と倫理観を身に付ける。				
キーワード	健康・スポーツ実践				
授業の概要	<p>1) チーム・スポーツ及び生涯スポーツに直結するデュアルスポーツに計画的に取り組み、現在並びに生涯を通してスポーツに親しむことができる能力を高める。</p> <p>2) スポーツ実践を通して、身体と心の変化を感じとることができる能力を高める。</p> <p>3) 食と健康に関する知識を獲得する。</p>				
授業の計画	<p>第1回： オリエンテーション デュアルスポーツの特性と生涯スポーツについて</p> <p>第2回： デュアルスポーツ(卓球)の実施計画立案と運動実践</p> <p>第3回： デュアルスポーツ(卓球)の個人的技能の習熟方法の理解と運動実践1</p> <p>第4回： デュアルスポーツ(卓球)の個人的技能の習熟方法の理解と運動実践2</p> <p>第5回： デュアルスポーツ(卓球)の集団的技能の習熟方法の理解と運動実践</p> <p>第6回： デュアルスポーツ(卓球)のシングルス試合の運営方法の理解と運動実践</p> <p>第7回： デュアルスポーツ(卓球)のダブルス試合の運営方法の理解と実践1</p> <p>第8回： デュアルスポーツ(卓球)のダブルス試合の運営方法の理解と実践2</p> <p>第9回： デュアルスポーツ(バドミントン)の実施計画立案と運動実践</p> <p>第10回： デュアルスポーツ(バドミントン)の個人的技能の習熟方法の理解と運動実践1</p> <p>第11回： デュアルスポーツ(バドミントン)の個人的技能の習熟方法の理解と運動実践2</p> <p>第12回： デュアルスポーツ(バドミントン)の集団的技能の習熟方法の理解と運動実践</p> <p>第13回： デュアルスポーツ(バドミントン)のシングルス試合の運営方法の理解と運動実践</p> <p>第14回： デュアルスポーツ(バドミントン)のダブルス試合の運営方法の理解と運動実践</p> <p>第15回： 学習のまとめ 生涯スポーツにつながる自己の課題について</p>				
受講条件・関連科目					
授業方法	実技および講義				
テキスト・参考書	なし。ただし、適宜資料を配布する。				
成績評価	<p>・試験(20%) ・レポート(80%)</p> <p>各種スポーツの運動実践の様子、受講状況、毎授業後提出する身体と心の変化に関する簡単な調査及びそれに関するレポートから評価する。</p>				
履修上の注意	実技の際には、必ず体育に適した服装(ジャージ)に着替えること。				